

2026 年度論文輪読会第 9 回報告

日時： 2026 年8月 22 日（土） 14：00～16:00

出席者数： 10名

座長： 宮下 純夫 （以下敬称略）

参加形式： オンライン Zoom ミーティング（担当： 関根 達夫）

論文紹介者： 君波 和雄 （会員）

論文名： Zhao, P., Alexandrov, I., Jahn, B.-m. and Ivin, V., 2018. Timing of Okhotsk Sea Plate collision with Eurasia Plate: Zircon U-Pb age constraints from the Sakhalin Island, Russian Far East. *Jour. Geophys. Res.: Solid Earth*, 123, 8279–8293.

内容要旨： オホーツク海プレートとユーラシアプレートとの衝突時期をメインテーマとした論文であり、サハリン中部の付加体（東サハリン付加体）堆積岩と花崗岩類（Langeri深成岩とVal'za深成岩）のジルコンU-Pb 年代からそれを明らかにすることを試みている。衝突の場所に関しては、Rodnikov et al. (2013)の研究結果に従い、デリュージン海盆と北サハリン盆の間（オホーツク海西縁部）に認められる地磁気異常帯（蛇紋岩メランジュや藍閃石片岩が産出）に設定している。東サハリン付加体の西縁部に分布するVerhnelangeri変成コンプレックスの泥質片岩や砂質片岩（計 4 試料）の碎屑性ジルコンのU-Pb 年代の若いクラスターとして、51 Ma, 72 Maおよび79 Maのピーク年代が認められる。またこの変成コンプレックスを貫くLangeri深成岩とVal'za深成岩（計 4 試料）のジルコンU-Pb 年代は、35.4 Maから 35.4 Maであり、安定している。本論文では、従来の研究結果をも顧慮して、深成岩が衝突起源であるとしている。こういった研究結果を踏まえて、本論ではオホーツク海プレートとユーラシアプレートとの衝突が49 Maと38 Maの間に起こったと結論している。

論点： 本論は、新たな年代データを提供した点で評価できるが、いくつかの不備が認められる：1. 東サハリン付加体の実態に関する記述が貧弱であり、付加体を形成した沈み込み方向が議論されていない、2. サハリン中部の東部に分布

するテルペニエ島弧コンプレックスに触れておらず、その位置付けが明確にされていない、3. 花崗岩類に関しては、海嶺沈み込みに由来するとの見解があるが、それに関して評価が加えられていない。

様々な方向からの質問・指摘が行われ、活発な議論がなされた。

高波 鐵夫 （論文輪読会担当）